

女性社員訪問①⑦ 私たちはいま

(株)ピーパーク埼玉 **杉本 志保里**さん



どのお店に行っても
チームワークが良いのが
ピーパーク、と杉本さんは言う

ピーパークホールディングス(株)

1980年10月創業。代表取締役会長 庄司正英氏。取締役社長 庄司眞氏。東京都中央区銀座に本社を置き、東京、埼玉、千葉、神奈川に34店舗の遊技場を運営。「Fun for Life~ピーパークが世の中を楽しくする」をキーワードに、店舗と地域の融合から生まれる新たな楽しさを追求している。株式会社ピーパーク埼玉はピーパークホールディングスのグループ子会社。

プロフィール
2008年4月新卒
総合職で入社。草
加店、銀座店を
経て2015年にピー
パーク草加店の副
店長に就任

2月10日に開かれた「第3回女性活躍推進フォーラム」で、業界のイメージ変革のためには、企業側の努力と併せて、当事者である女性たちもキャリアプランを立てて積極的に管理職を目指していくことも大事、と講演した杉本さんに今回はお話を伺いました。

ミスへの対応ではなく

——「本質を理解して取り組む」ことを、仕事で一番大事にしていることについてお話を伺いました。

杉本 そうですね、例えば後輩社員やスタッフがミスした時に、対応策を自分で考えて持つてきて、と指導していたのですが店長は、ミスを考えた時にどう対応するか、だけを考えた時にどう対応するか、で似たようなミスをするのでしょうか？ ミスをしないためにどうするか、ではなくて、お客様にご迷惑をおかけしないよう何をするか、というのが問題の本質ではないですか？ と問われてハッとしたことが強く印象に残っています。

——本質から考えると応用範囲が

杉本 え、それまで一つ一つでき、というのが多いなと思っていて、成長のスピード感があまり感じられなかったのです。心情的にはついてきてくれるものの、私と同じレベルで仕事できるようなはなかなかないのはなぜだろう、指導法なのかな、と考えていたのです。店長のおっしゃる「本質を」という視点でお客様に対しての気持ちを深掘りしていくと、結果的にお客様と会社、仲間のためになるのだなと、教えながら気が付きました。

広がりやすよね。

杉本 え、それまで一つ一つでき、というのが多いなと思っていて、成長のスピード感があまり感じられなかったのです。心情的にはついてきてくれるものの、私と同じレベルで仕事できるようなはなかなかないのはなぜだろう、指導法なのかな、と考えていたのです。店長のおっしゃる「本質を」という視点でお客様に対しての気持ちを深掘りしていくと、結果的にお客様と会社、仲間のためになるのだなと、教えながら気が付きました。

女性社員育成のための諸施策

- 新入社の女性社員には、採用担当の女性社員が様々なフォローアップを継続し、メンター的なコンタクトを行っている
- 女性従業員自らが現場で必要なスキルアップ講座を企画、開催
- 経営トップと女性従業員との意見交換会を開催
- 人事部による各種集合研修に加え、自己研鑽を促すため、社外研修受講費用の一部を会社が負担する福利厚生制度を制定

よさこい参加の思い出

——地域交流にも熱心な御社では、草加市のよさこいに参加していますね。

杉本 はい、商工会議所の方からお

ピーアークが求める人物像

社訓「創造・挑戦・熱意」に共感し、素直な心で表現する人。失敗を恐れず果敢に挑戦し、たとえ失敗してもそこから多くを学ぶ素直な心で、次の成功に繋げていくことが当社の社風。成功するまで絶対に諦めない!という強い意志と覚悟を持つ人だけが、新しい未来を切り拓くことが出来るのだと思います。あとは、“楽しいこと”に貪欲である人。(杉本)

の。わからないことがあったらまた教えてね」とわざわざ、よさこいの打ち合わせの時に声をかけてくださったのです。来店されてから何日もたっていたのに、ありがたかったです。また、私たちがよさこいで無理をかけているメン

バーにも、たったお一人かもしれないけれど、新規お客様獲得という実の部分で、やっと少しお返しできたなと思いました。

会社全体に広がり見せ

——見事な地域交流ですが、社内ではどんなふうに理解されているのですか。

杉本 スタート時は、ピーアーク埼玉の有志が時間外で活動していました。なるべく営業面で迷惑をかけないように、それぞれがこっそり努力しているのを、みんな見ていたのですね。あいつらもがんばっているから協力してやろう、という気持ちがあいづらまされて、よさこいに参加するための有給休暇を取らせてくれたり、人手不足気味になったところをカバーしてくださるなどして応援してくださったのです。

——その後はどうなつたのでしょうか。

杉本 2年目からは、ピーアーク埼玉の社長もさらに積極的に後押ししてくださって、会社としての取り組みが変わっていききました。打ち合わせは就業時間内にするのとや、衣装の用意やクーリングも会社が負担してくださったりと大きく変化していきました。お店

本質を理解する努力を続け 先の見える店長めざします

の前が会場になるのもありますが、それでも店舗のメンバーの半分はよさこいに出して、商店会の本部設営や運営などにも協力し、会社をあげて一緒にお祭りを作っています。土日で5万人が参加する、草加市2番目の大きなイベントなんですよ。

——これは埼玉だけで取り組んでいるのですか。

杉本 東京や千葉のメンバーにも参加してもらっています。同期を誘ったり、グループ会社の社長が自分たちのところでもやりたいから、埼玉に勉強に行ってきたさい、と社員たちに参加を勧めてくださいたりして連を作っています。ピーアークはボトムアップの力が強いのですが、草加のよさこいは、地域融合の一つのモデルになっていると、庄司会長から言っていたことがありました。みんなに無理をかけているだけに、認められて嬉しいです。

同じことを考えているのは

——女性活躍推進フォーラムでは、店長になることを目標として話されていましたが。

杉本 実力のある店長になりたいですね。いいお店に配属されたならもっと上を、低調な店舗なら利益を少しでもあげる、そういうところをちゃんと心配できるかどうかだと思います。もし、グループのA店やB店の店長になったら何をするか、よく考えるんですよ。でもどこの店長も今ベストを尽くしているの、同じことを考えてもそれ以上にはならないなと。そこで、3年も右肩上がりの実績を重ねているこのお店の店長を観察するのですが、いやもう先を見る力が全然違うので私に同じことができるとは思えません。

——先手、先手なのです。

杉本 とても早いですね。もうアテナが高い広いところの話じゃないので、一番尊敬していますし、そういう店長になりたいです。また、今の私はたくさんの方のご尽力があつて引き上げていただいていますし、その中のお一人がいつもおっしゃっている、チャンスが来た時にそれを逃さないよう常に準備をしておくことを、これからも続けていこうと思っています。

(構成/佐藤聖子 広報調査委員会)